



図説日本の古典

第1巻／古事記	武蔵大 学教授	神田秀夫	奈良国立文化 財研究所長	坪井清足	学習院 大学教授	黛 弘道
第2巻／萬葉集	筑波大 学教授	伊藤 博	虎城大 学教授	上原 和	学習院 大学教授	黛 弘道
第3巻／日本霊異記	琉球大 学教授	小島瓊禮	東北大 学教授	上原昭一	東京大 学助教授	笹山晴生
第4巻／古今集・新古今集	東京大 学助教授	久保田 淳	美術 史家	白畑よし	聖心女子 大学教授	目崎徳衛
第5巻／竹取物語・伊勢物語	大阪女子 大学教授	片桐洋一	大谷女子 大学教授	伊藤敏子	聖心女子 大学教授	目崎徳衛
第6巻／蜻蛉日記・枕草子	学習院 大学教授	木村正中	美術 史家	白畑よし	東京大 学教授	土田直鎮
第7巻／源氏物語	東京大 学教授	秋山 虔	学習院 大学教授	秋山光和	東京大 学教授	土田直鎮
第8巻／今昔物語	早稲田 大学教授	国東文麿	美術 史家	梅津次郎	京都女子 大学教授	村井康彦
第9巻／平家物語	神戸大 学名誉教授	永積安明	大阪大 学教授	武田恒夫	京都大 学教授	上横手雅敬
第10巻／方丈記・徒然草	お茶の水女 子大学教授	三木紀人	東京国立文 化財研究所	宮 次男	東京大 学教授	益田 宗
第11巻／太平記	早稲田 大学教授	梶原正昭	東京国立文 化財研究所	宮 次男	京都大 学教授	上横手雅敬
第12巻／能・狂言	東京大 学教授	小山弘志	京都国立 博物館	切畑 健	大阪市立 大学名誉教授	原田伴彦
第13巻／御伽草子	国文学研究 資料館長	市古貞次	美術 史家	高崎富士彦	東北大学 名誉教授	豊田 武
第14巻／芭蕉・蕪村	福岡大 学教授	白石悌三	文化 庁	佐々木丞平	学習院大学 名誉教授	児玉幸多
第15巻／井原西鶴	埼玉大 学教授	長谷川 強	東京大学 名誉教授	山根有三	学習院大学 名誉教授	児玉幸多
第16巻／近松門左衛門	学習院 大学教授	諏訪春雄	大阪大学 助教授	信多純一	横浜市立 大学教授	辻 達也
第17巻／上田秋成	国文学研究 資料館教授	松田 修	名古屋大 学助教授	河野元昭	学習院 大学教授	大石慎三郎
第18巻／京伝・一九・春水	早稲田 大学教授	神保五弥	東京国立 博物館	小林 忠	立正大 学教授	北原 進
第19巻／曲亭馬琴	明治大 学教授	水野 稔	国立国会 図書館	鈴木重三	東京学芸 大学教授	竹内 誠
第20巻／歌舞伎十八番	早稲田 大学教授	郡司正勝	東京国立 博物館	小林 忠	成城大 学教授	西山松之助

図説日本の古典 3 日本霊異記

昭和56年 3月20日 第1刷印刷

昭和56年 4月9日 第1刷発行

著者代表——小島瓊禮 ©1981

発行者——堀内末男

発行所——株式会社 集英社

東京都千代田区一ツ橋2-5-10

電話—販売部 東京(03)238-2781

出版部 東京(03)230-6381

振替—15653／郵便番号101

印刷所——大日本印刷株式会社

用紙——王子製紙株式会社

製本——中央精版印刷株式会社

文勇堂製本工業株式会社

製本には十分注意していますが、落丁・乱丁の際は
おとりかえいたします。

0391-167003-3041

Printed in Japan

〈企画委員〉

東京大学教授

国文学研究資料館長

学習院大学名誉教授

早稲田大学教授

東京大学名誉教授

秋山 虔

市古貞次

児玉幸多

神保五弥

山根有三

〈第三巻・編集委員〉

琉球大学教授

東北大学教授

東京大学助教授

小島瓊禮

上原昭一

笹山晴生

日本霊異記



集英社

目次

●カラー図版●興福寺本『日本霊異記』／聖徳太子二皇子像／金銅釈迦三尊像／興福寺伽藍／『十王経図巻』／法隆寺金堂外陣旧壁画／『浄土曼荼羅図』／報恩院本『絵因果経』／『賢愚経』／紫紙金字金光明最勝王経／『行基菩薩行状絵伝』／行基骨蔵器へ残欠／長岡京跡／計帳様文書断簡／緑釉の釜と火舎／土馬・かまど・墨書土器／『日本霊異記』の諸本

●図版特集●

景戒のいた薬師寺 上原昭一

薬師寺の景／観音菩薩立像／薬師三尊像／『慈恩大師像』／仏足石／仏足跡歌碑／『吉祥天像』

仏教と唱導文学 小島瓊禮

唱導文学の世界 『日本霊異記』の成立

『日本霊異記』―作品紹介 小島瓊禮

神々の時代の終焉 小島瓊禮

神と大王と雷神と 雷神の客神時代

●図版特集●

『日本霊異記』の仏たち 上原昭一

執金剛神立像／十一面観音立像／菩薩立像／弥勒仏坐像／釈迦如来坐像／吉祥天立像／薬師如来立像

仏教文学の発生 小島瓊禮

新しい旧辞の形成 聖者譚の誕生

●図版特集●

『行基菩薩行状絵伝』 上原昭一

文学の長岡京時代 小島瓊禮

長岡京懷古 景戒の境涯

官寺と道場 笹山晴生

律令制と仏教 地方豪族の仏教信仰 草の根の動き

●図版特集●

奈良仏教の高僧像 上原昭一

義淵僧正坐像／行基菩薩坐像／玄昉坐像／役行者及二鬼像／行信僧都坐像／『智光曼荼羅圖』／良弁僧正坐像／鑑真和上坐像

145

平城京の落日 笹山晴生

大仏開眼とその後 仏教と政治の癒着 新生への出発

152

●図版特集●

平安遷都前後の造像 上原昭一

敦煌壁画／大仏台座蓮弁図／千手観音坐像／千手観音立像／馬頭観音立像／十二面観音立像／観音菩薩坐像／楊柳観音立像／薬師如来立像／梵天立像

161

天平彫刻の展開 上原昭一

大仏造頭の前後 天平彫刻の特質

168

信仰と造像の推移 上原昭一

天平末期の造像 平安仏教の登場

174

●図版特集●

都の内と外 笹山晴生

唐招提寺帝釈天像台座の落書／平城京朱雀門の復元模型／平城宮内裏の遺構／平城宮出土の装身具・食器／志太郡衙跡／志太郡衙の復元模型／郡名・郡司職名を記す墨書土器／若葉台遺跡の出土土器／庶民の住居とかまど／庶民の食器／大八木遺跡の水田跡／吉田南遺跡の橋梁遺構

181

奈良時代の民衆と生活 笹山晴生

奈良の都 活発な交易活動 地方の豪族と民衆

188

●図版特集●

地方寺院 笹山晴生

196

現代にみる『日本霊異記』 小島瓊禮

暮らしの中に生きる伝統 尋常人の人生観

202

『日本霊異記』説話分布図 曾根正人

210

『日本霊異記』説話年表 曾根正人

212

凡例

- 1 古典文学の珠玉の名作を立体的に構成した本シリーズでは、その内容をさらに意義づけるため、その部分の執筆者が各図版の解説にあたったが、それ以外の場合は、とくに解説の末尾に氏名を付記した。
- 2 本巻の仮名づかいは、原則として現代仮名づかいによった。古文の引用については、歴史的仮名づかいを原則としたが、必要に応じ原本通りとした部分もある。特殊な美術・歴史用語の引用などについては原本通りとした。
- 3 参考文献を各部分の章末に一括して注記し、読者の便をはかった。
- 4 各図版に添記した国宝・重文・史跡のうち、重文は重要文化財、史跡は国指定史跡の略である。なお、個人所蔵者名は略させていただいた。
- 5 本巻の図版写真および資料の収集にあたっては、その所蔵者・管理者・提供者・撮影者など、関係者各位のご好意とご協力を賜った。

〈第三巻・執筆者〉

琉球大学教授 — 小島環禮

東北大学教授 — 上原昭一

東京大学助教授 — 笹山晴生

東京大学大学院 — 曾根正人

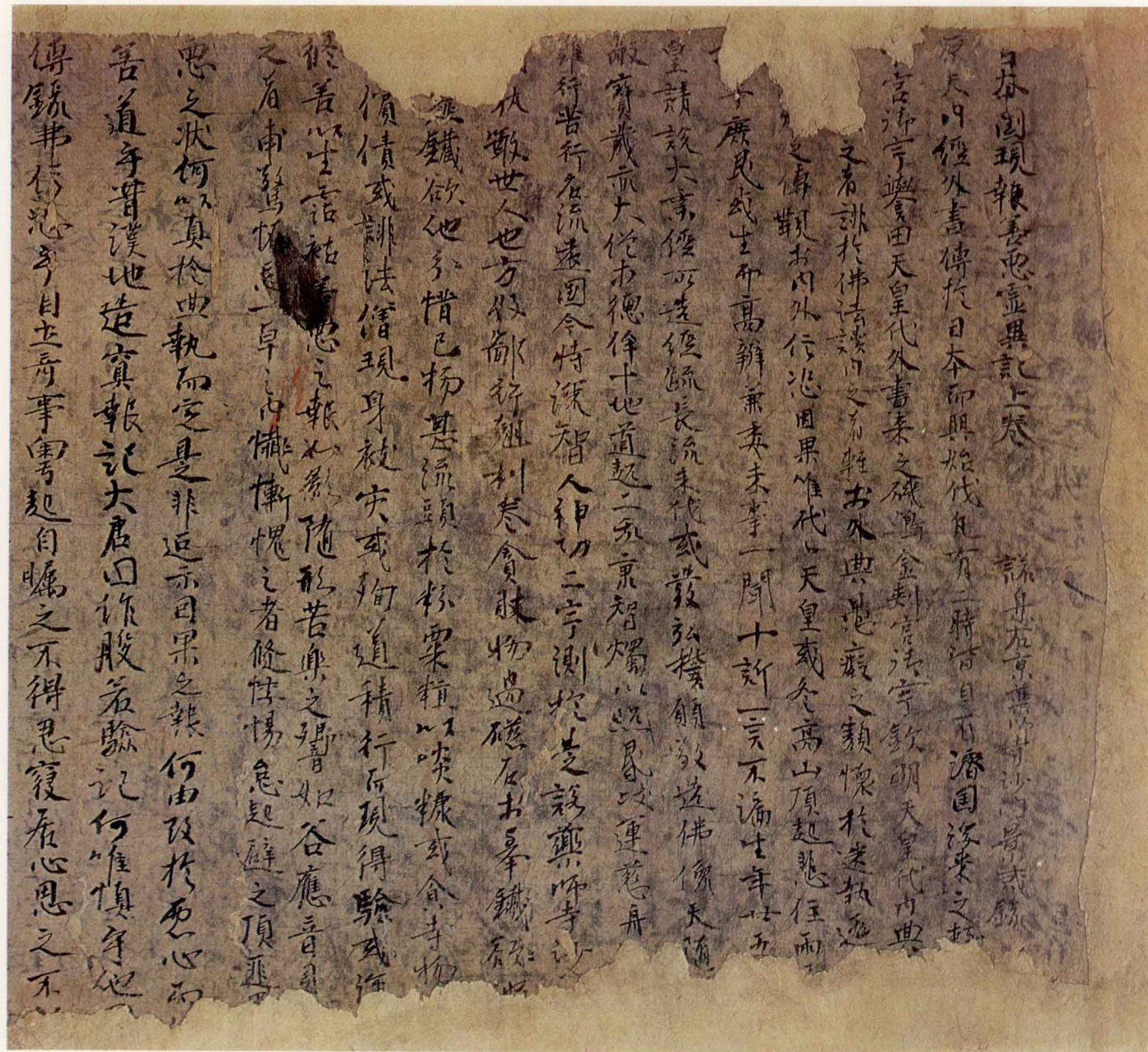
〈装幀〉

後藤市三

レイアウト

宇喜多邦嘉

樋口英男



1 興福寺本『日本靈異記』上巻巻首——大正11年(1922)9月に、興福寺東金堂の天井裏から発見された。上巻だけだが、現存する諸本の中では最古のものである。中国の仏教説話集『衆經要集金藏論』の紙背を用いている。巻末に延喜4年(904)の識語があるが、この本は、その延喜本を、あまりへだたらぬころに写したものといわれる。天地などにわずかな破損があるが、首尾完備した善本で、本文も古態をとどめている。巻尾の4条は、この本にだけ伝わっている。昭和9年(1934)3月に、複製本が刊行されている。平安時代。卷子装。縦28.8cm/奈良県・興福寺

2 『聖徳太子二皇子像』——
1 万円札のおれでなじみのあるこの画像は、すでに平安末には「太子俗形御影」と記され、数多い太子像中、最古の作である。山背大兄王(やましのおおえのおう)と殖栗王(えぐりのおう)を前後に従えた構図は、六朝時代の肖像画の形式を伝えたもので、謹やかな描線、衣文の隈取(くまどり)画法など、大陸風の描法が認められる。唐本御影、あるいは百済の阿佐太子筆の伝承があり、天平時代の作とする説が有力である。奈良前期。紙本着色。縦101.3cm 横53.5cm/宮内庁



3 金銅釈迦三尊像——推古天皇31年(623)、聖徳太子の冥福を祈り、鞍作止利(くらつくりのとり)仏師に命じて、尺寸王身(聖徳太子に等身の意)に造らせた釈迦を中心に、両脇侍(きょうじ=左右に侍しているもの)が大きな舟形の光背におさまる一光三尊形式であらわされている。わが国における仏像彫刻の原点となる作品であり、中国北魏の造形様式を祖型として、きわめて繊細な感覚で鑄造されたモニュメンタルな遺品である。飛鳥時代。銅造。像高(中尊)86.4cm/奈良県・法隆寺







4 興福寺伽藍——和銅3年(710), 平城遷都にともなう官営大寺の造営に伍して, 藤原氏の氏寺として造営がはじまり, 南家・北家・式家・京家と分かれた不比等の子4兄弟の末裔たちによって着々と諸伽藍が建立され, 冬嗣(ふゆつぐ)の建てた南円堂を最後に興福寺伽藍は完成した。治承4年(1180)の兵火以降, いくたびかの火災に焼亡し, 今, 中金堂・東金堂, 北・南円堂, 五重塔が建っている。残る礎石とともに在りし日の壮観が偲ばれる。奈良市登大路町。

引路中頭肩俠棒
第二七日過初江王
諸日 二七亡人渡奈何
千郡万隊涉洪波
催行^鬼卒手擎叉





5 『十王經図巻』部分——『十王經』は、亡者が冥土で十王の裁判を受けた時、縁者の供養によって罪をまぬがれ、浄土に往生できると説いた「仏説閻羅王授記四衆逆修生七往生浄土経」「仏説地藏菩薩発心因縁十王経」（大聖慈寺沙門蔵川の述作した中国での偽経）にもとづいて、その内容を図絵したものである。これはスタインが敦煌（とんこう）から得た図巻で、第一秦広王から地獄図と地藏菩薩の出現までを描いた10世紀ごろの貴重な『十王経図巻』である。紙本着色。縦28.0cm／大英図書館



7 『浄土曼荼羅図(文亀曼荼羅)』部分——中將姫の伝説で名高い曼荼羅(まんだら)堂の厨子(ずし)に納まるこの浄土図は、綴織(つづれおり)当麻曼荼羅を文亀3年(1503)に写したもので、善導大師の『観經四帖疏』を直接の典拠として、中央に阿彌陀三尊を中心とする西方極樂浄土のさまをあらわし、右縁に13観、下縁に九品来迎、左縁には阿闍世王物語を図示する。智光・清海両曼荼羅とともに、三大浄土曼荼羅の一つである。絹本着色。378.0cm 横388.0cm/奈良県・当麻寺

6 釈迦浄土図(法隆寺金堂外陣旧壁画)——昭和24年(1949)、工事中の法隆寺金堂に火災が起こり、壁画は大きく焼損した。今、全容をながめるすべを失ったが、在りし日の四方四仏の浄土のさまを、この図から想定してもらえらるだろう。第1号壁の釈迦浄土は、釈迦を中央に、両脇侍十大弟子によって構成されている。遠く敦煌(とんこう)の壁画と対応する極東の大壁画であった。唐風のとのつた豊かな構図と賦彩(ふさい)を示す世界的な遺品であった。まことに焼損したことが惜しまれる。/奈良県・法隆寺





魔有三女形容儀貌
極為端正妖冶巧媚
善能惑人於天女中
寧為第一薰以名香
佩好瓔珞一名深欲
二名能悅人三名可愛
樂三女俱前白其父
言不審令者何故憂
愁父即寫心語諸女
言世間今有沙門瞿
曇身被法鎧執自在
為鐵智慧箭欲服眾
生壞我境界我若不
如眾生信彼皆悲歸
依我主則空是故悲
耳及未成道欲注推
挫壞其橋樑於是魔
王手執強弓又持五
箭男女眷屬俱時注

恒伽達品第六
如是我聞一時佛在羅閱祇樹園
精舍是時國中有一輔相其家
大富然无兒子時恒河邊有摩
尼跋羅天祠合主人民皆共敬
奉時此輔相往詣祠所而禱之言
我无子息承聞天神功德无量
救護群生能與其願今故自歸若
蒙所願願賜一子當以金銀校餉
天身及以名香塗治神室如其无
驗當壞汝廟屎塗汝身天神聞
已自思惟言此人豪富力勢彊盛
非是凡品得為其子我力甚少不
能與願願若不果必見毀辱廟
神便復往白摩尼跋羅摩尼跋
陀自力不辨自詣毗沙門王砧白
此事毗沙門言亦非我力能使有

金光明最勝王經序品第一

三藏法師義淨奉

制譯

如是我聞一時薄伽梵在王舍城鷲峯山頂

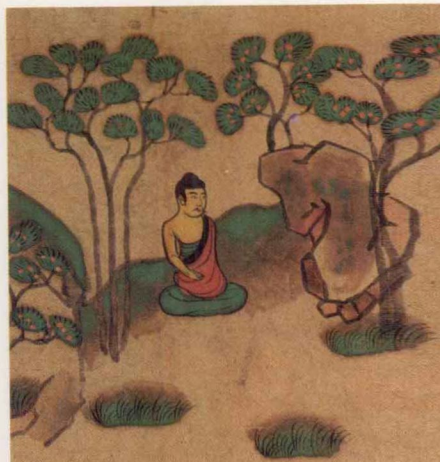
於最清淨甚深法界諸佛之境如來所居與

大苾芻衆九萬八千人皆是阿羅漢能善調

伏如大鳥王諸漏已除無復煩惱心善解脫

慧善解脫所作已畢捨諸重擔逮得已利盡

諸有結得大自在任清淨戒善巧方便智慧



生死三有之海今時
魔王左手執弓右手
調箭語菩薩言汝利
利種死甚可畏何不
速起宜應俯汝轉輪

8 降魔の物語(報恩院本『絵因果経』第5巻部分)——『過去現在因果経』を絵画化し、上半に絵を、下半に経を対応させて描き、絵巻のように展開させたのが『絵因果経』である。本図は、釈迦が正覚(悟り)を達成するのをさまたげようと、魔王がさまざまな方法で妨害する一連の場面の一部で、思案にふける魔王をたずねる3人の娘と、つぎにどういふ妨害をしてやろうかと、樹下に端座する釈迦をうかがう魔王と、男女の眷属(けんぞく=一族)を描いている場面である。奈良時代。紙本着色。卷子装。縦26.4cm/京都府・醍醐寺

9 『賢愚経』恒伽達品(ごうがだつぽん)第六——「大聖武(おおじょうむ)」(一名大和切)とよばれ、珍重されるこの経巻の成巻のまま伝えられたものは少なく、まことに貴重な1巻である。白麻紙に伽羅(きゃら)系香木の粉末を漉(す)きこんだ茶毘紙(だびし)といわれる料紙に、1行10~13字で書写した、いかにもどっしりした迫力のある大字の写経で、聖武天皇の宸筆と伝えるが、東大寺戒壇院に伝来したといわれるように、8世紀に渡来した唐人の筆になるものと思われる。奈良時代。卷子装。縦27.0cm/東京都・前田育徳会尊経閣文庫

10 『紫紙金字金光明最勝王経』序品——厚手の濃紫色の料紙に、ほそい金碧を引き、1行17字ずつきわめて端正な金字で書写している。本経は、護国三部経の一として重んじられた經典で、天平13年(741)、聖武天皇の国分寺建立の発願に合わせて、官営写経所で書写され、国分寺の塔に安置されたものの1巻であろう。巻1と巻9の軸付紙背に、校生・螢生(えいせい=猪牙で金字をみがいた工人)などの墨書がある貴重な経巻である。奈良時代。卷子装。縦26.3cm/和歌山県・竜光院